

令和 2 (2020) 年度 学生生活実態調査について

学生委員会

調査：令和 2 年 9 月（後学期ガイダンス）

調査対象：1 年次生 103 名、2 年次生 101 名、3 年次生 103 名、4 年次生 105 名 計 412 名

調査方法：無記名マークシート方式調査票による調査結果

回収率：1 年次生 101 名（98.1%）2 年次生 96 名（95.0%）3 年次生 95 名（92.2%）

4 年次生 95 名（90.5%） 合計 387 名（93.9%）

I 生活のお金に関すること

1. 奨学金について

1) 奨学金の有無とその内容（Q1）

奨学金を受けている学生は 54%（221 名）、受けていない学生は 46%（192 名）であった。受けていないが検討を考えている学生も含めると約 6 割の学生が希望しており、年々増加傾向が認められた。

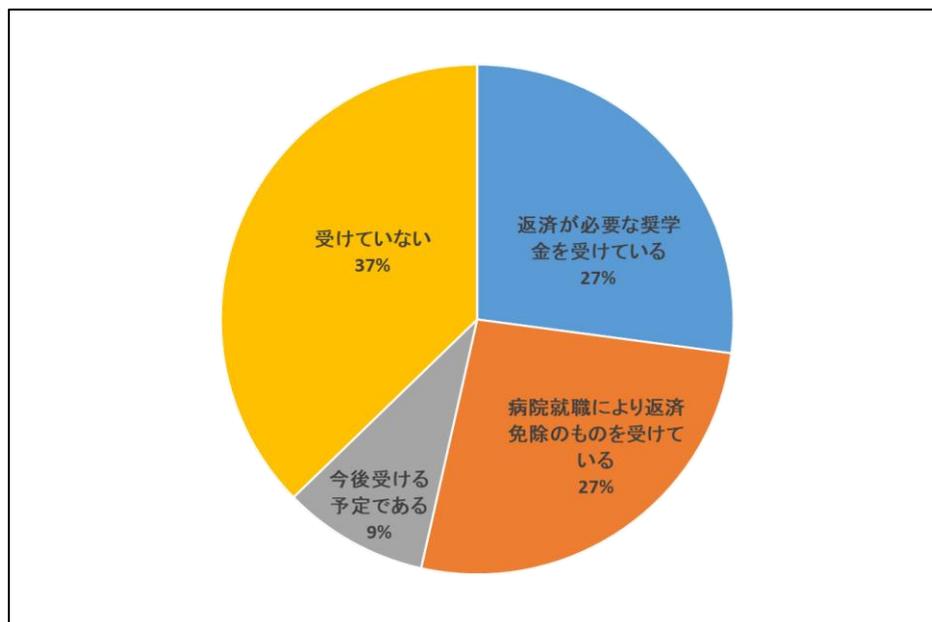


図.1 奨学金受給状況

2) 奨学金を受ける主な理由（Q2）

奨学金を受ける主な理由として、経済的負担の軽減が多く、次いで学費の軽減が挙げられていた。

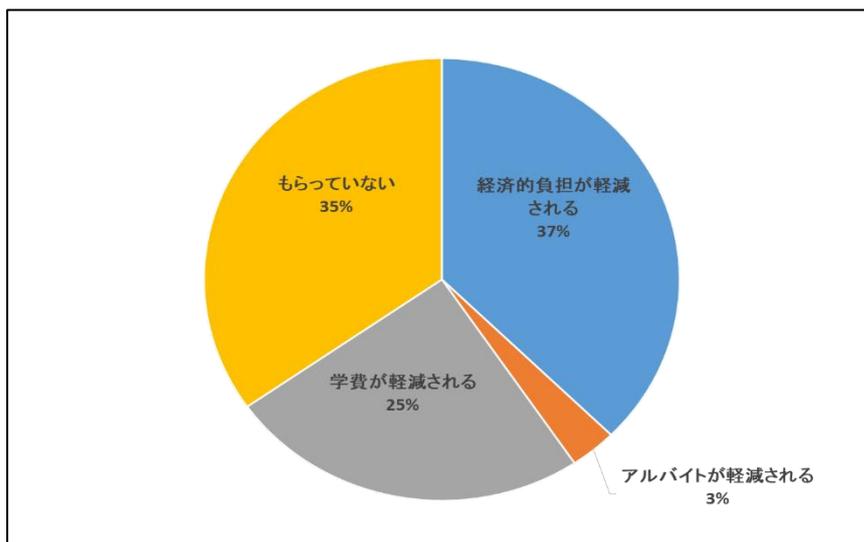


図.2 奨学金の受給理由

2. アルバイトについて

1) アルバイトの現状 (Q3～7)

全体の9割近い学生がアルバイトをしており、アルバイト日数は週に2～3日の学生が全体の約6割であった。1週間のアルバイト時間は、20時間未満に約7割が含まれており、日数・時間ともに昨年度と大きく変わりなかった。アルバイト収入の目的の第一位に学費・教材費と挙げている学生が5%(20名)4%(16名)おり、昨年度より僅かに増加していた。

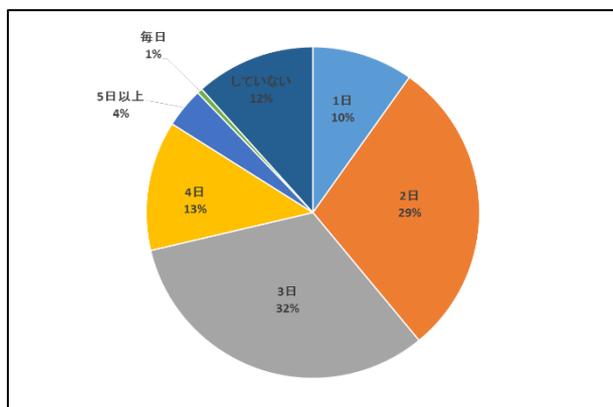


図.3 1週間のアルバイト日数

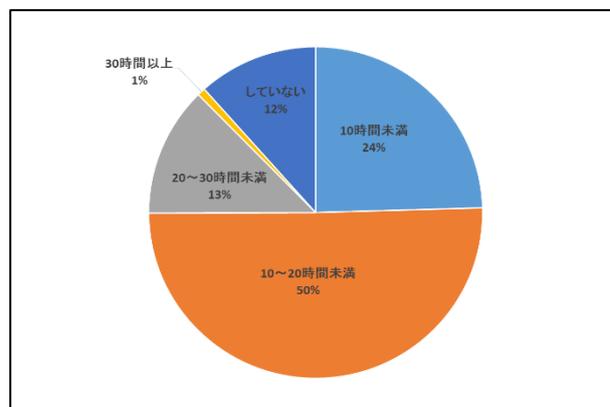


図.4 1週間のアルバイト時間

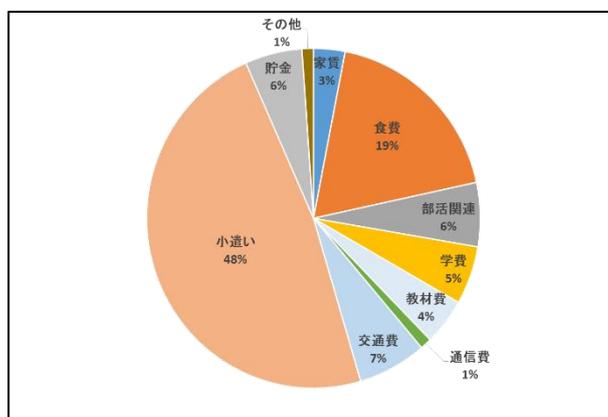


図.5 アルバイト収入の使用理由(1位)

3. 生活困窮について

1) 生活が経済的に苦しいと感じているかと学業への影響 (Q8~9)

経済的に苦しいと感じている学生は 14%(55 名)であり、経済的問題が学業に影響すると回答した学生は 12%(49 名)であった。

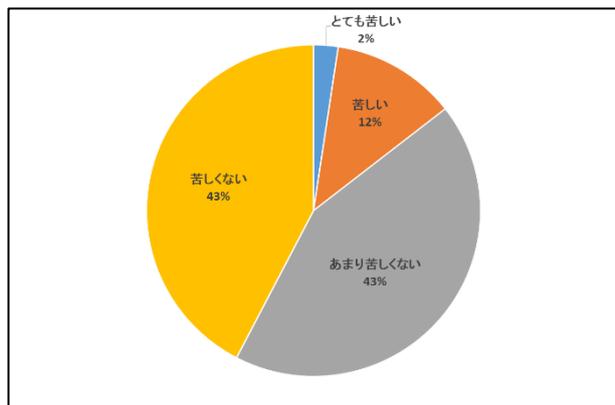


図.6 生活が経済的に苦しいと感じているか

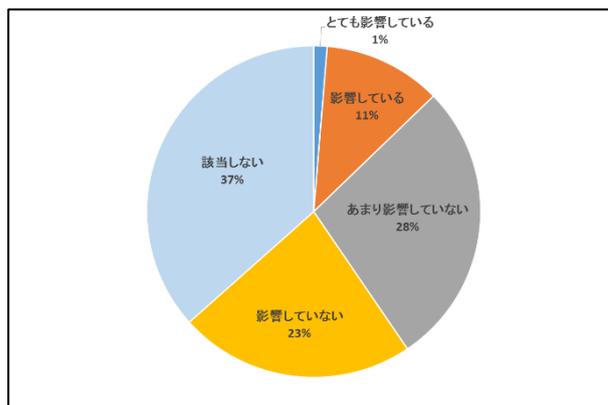


図.7 経済的問題の学業への影響

II 学修状況について

1. シラバスの確認状況 (Q10)

シラバスの確認状況について、82%(319 名)が確認していると回答していた。昨年度の 88%よりも僅かに低下していた。各学年で約 8 割の学生がシラバスを事前に確認しているとの結果であった。

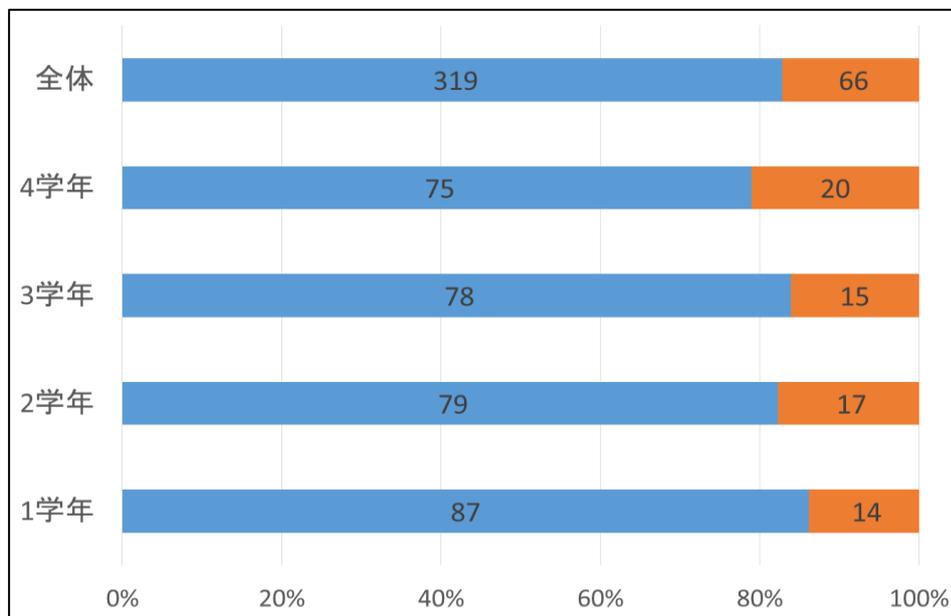


図.8 シラバスの事前確認状況

2. シラバス内の準備学修（予習・復習）の認知度と学修状況（Q11）

9割以上の学生がシラバスに事前学修（予習・復習）について明記されていることを認知していた。しかし、明記された予習・復習を行っている学生は17%（66名）であり、認知しているが予習・復習を行っていない学生は35%（135名）と認知と実施には大きな隔たりが認められた。

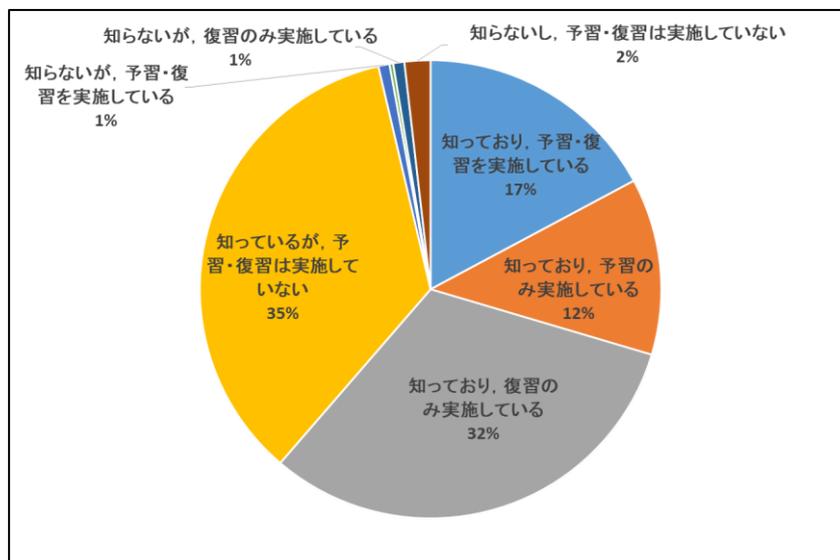


図.9 シラバスに準備学修が明記されていることの認知

3. 課題と対策

シラバスの確認についてガイダンス等で周知を行い、ほとんどの学生が認知していた。しかし、シラバスに記載されている準備学修については8割近くの学生が予習・復習を記載通りに行っておらず、予習のみ、復習のみを加えることで6割となるが十分な事前・事後の学修が行えていない実情が明らかとなった。

今後は、より明確に準備学修課題を提示するとともに、事前・事後学修状況の把握を行うなどの対策が必要である。

III 学生の気持ちに関すること

1. 不安や悩みについて

1) 不安や悩みの有無と悩みの内容

不安や悩みについて、学生全体の約6割が「ない」と回答していた。不安や悩みの内容として、学業に関することが最も多く、次いで就職や将来について、看護職への適正についてであった。学年問わず、学業についての不安や悩みが高い結果は、昨年度と同様であったが看護職への適正について昨年度よりも不安・悩みの回答が多い結果であった。

